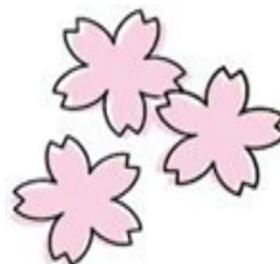


## 卒業おめでとう！！



卒業おめでとう！！晴れて今日の佳き日を迎えられたみなさんの胸中には、在学中のさまざまな思い出が去来していることでしょうか。みなさんとは、特進コースについては、1年から3年まで「公共」や「公民探求」で、体育コースは2年生の「公共」で授業を担当しました。その他、3年1組から3年3組までの生徒のみなさんとはゼミの時間でともに活動しました。

筆者は大学時代に、東京の新宿高層ビル群の中心にそびえる新宿センタービルの地下街の喫茶店でアルバイトをしていました。筆者は学校で授業等がないとき以外は夕方からアルバイトに入ることが多かったのですが、同僚で宅建（宅地建物取引士）の資格取得のために近くの女子大に通っていた女優の若村麻由美さん似の同い年の女の子が、仕事が終わった後の仲間でほっとひと息ついている際の会話の中で、「これから先の人生、どうなるか分かっていたらつまらない。分からないからこそ面白（おもしろ）いんじゃない！」と話していたのがとても印象に残っています。性格的にも明るい女の子でしたが、非常にポジティブに聞こえて筆者には新鮮でした。

筆者が大学に通っていたのは、バブル経済が崩壊した頃でした。1993年は記録的な冷夏で米の生産が不作に終わり、「平成の米騒動」とも呼ばれる事態になりました。日本政府は各国に米の緊急輸入を打診し、この打診にタイ政府がいち早く応えました。しかし、大量に輸入したタイ米は日本人の嗜好（しこう）に合わず、不人気でした。その結果、最終的に日本政府は日本米とタイ米をブレンドする形での販売を推奨するという苦肉の策で対処しました。今振り返ってみると、それはそれで大変な時期というか、時代だったと言えるのかもしれませんが。

しかし、今現在は筆者が大学生活を送っていた頃とは比較にならないくらい大変な時代だと感じています。異常気象、地震や洪水などの相次ぐ大規模災害、物価高・・・と挙げ出せば枚挙にいとまがありません。そのような中で、新たなステップに進もうとするみなさんは、当然さまざまな不安を抱えていることでしょうか。「これから先の人生、どうなるか分からないからこそ不安なんじゃない！」と思わず言われてしまいそうです。

さて、みなさんは、3年間の昌平高校での生活を通して、折に触れて、儒学倫理（大まかに言ってしまうと、「孔子の教え」）に接してきました。聖賢堂で毎週、『修為要領十七条』を唱和する機会がありましたが、これは孔子の教えを17の条文にまとめたものです。本校に関係する多くの方が、「今は分からなくとも、将来必ず役に立つ内容であり、きっと学んでおいて良かったと思う日が来る」と話されていますが、筆者もそのように感じています。ぜひ本棚でも机の引き出しでも構いませんので、『修為要領十七条』を手元に置いて悩みがあったときにでも目を通していただければ幸いです。

これからの長い道程の中で、直接的に参考になるかどうかは分かりませんが、「人生」という観点から、筆者が大学時代に読んだ本の中で印象に残っているものを2つ紹介します。まずは、『冬の鷹』（吉村昭・新潮文庫）です。これはオランダ語の『ターヘル・アナトミア』を日本語に訳し、『解体新書』を完成させた前野良沢の貧窮の中、孤高を貫いた生涯と流行医への道を歩んだ杉田玄白の相克が描かれています。もう1つ、『銃口（上・下巻）』（三浦綾子・小学館文庫）は、教師になった青年が理想の教育と軍国主義のはざまに悩むストーリーです。片や江戸時代、もう一方も昭和の初期ということで、現代とは時代背景がだいぶ異なりますが、いずれもこれからの長い人生を歩んでいくうえで参考にしてほしい作品です。やや難しく感じたり、現代とは時代背景が異なることから読んでいてもなかなか理解できなかつたりする部分があるかもしれませんが、今すぐにはなくても、今後の人生のどこかで理解してもらえればうれしく思います。吉村昭も三浦綾子も長編の小説が多い作家です。読み応えのある作品が多く、他にも薦めたいものがたくさんあります。みなさんも1冊でも良いですから、いずれ彼らの何らかの長編小説を読破してほしいと思います。

最後になりますが、今日はお家の方に無事に卒業できたということで、感謝の気持ちを伝えてください。進路決定に当たっては進学希望から就職希望に変更になったり、合格していた大学を辞退したり・・・と、今年度もさまざまなことがありました。進学、就職を問わず、18歳で進路（自分のやりたいこと）を決定させなければならぬというのは難しい部分もあるものと思っています。高校卒業後もどのような選択をしたら良いのかを迫られる場面が多く出てくるかと思われます。そんなとき、先に紹介した筆者と同い年の女の子のようにポジティブに考えるようにしてみるのもひとつの方法かと思っています。悩み事があったら、ぜひ学校に相談に来てください。先生方はいつでもみなさんのことを応援しています。

文責：清水聖（進路指導主事）